

沖縄戦

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄戦は沖縄の歴史にとって欠くことのできない出来事である。それだけに現在でも沖縄戦の影響が沖縄の人びとの心や沖縄の社会に色濃く残っている。基地問題、教科書問題、歴史認識問題はその象徴である。この講義では沖縄戦を具体的・体系的に学ぶ。内容は、「授業の展開計画」に示した通りであるが、大まかに言えば沖縄戦の実相や教訓、戦争の不条理、さらに継承の現実と課題である。こうした体系的な沖縄戦を学ぶことで、沖縄戦の知識・理解、認識、問題意識を深める。講義は抽象的・理論的な学びではなく、具体的な事例を通して、本質に迫るという学びの方法をとる。そのためには具体的な事例や一次資料を教材化したプリントを活用する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス(沖縄戦の「記憶」とは)
2	沖縄戦への道(皇民化教育、同化政策)
3	第三十二軍(日本軍)の沖縄配備(要塞化した沖縄、沖縄作戦、日本軍の沖縄人観)
4	沖縄戦の経過(十・十空襲から降伏調印)
5	地域の沖縄戦①(中部の沖縄戦)
6	地域の沖縄戦②(南部の沖縄戦)
7	地域の沖縄戦③(北部の沖縄戦)
8	地域の沖縄戦④(宮古・八重山・久米島の沖縄戦)
9	沖縄戦の諸相①(学徒隊・防衛隊など根こそぎ戦場動員)
10	沖縄戦の諸相②(住民虐殺、「集団自決」、障害者やハンセン病患者の沖縄戦など)
11	沖縄戦の諸相③(御真影の末路、慰安所、沖縄と本土決戦など)
12	収容所から帰村(ゼロからのスタート)
13	沖縄戦の継承①(ヒトからモノへ)
14	沖縄戦の継承②(「記憶」から「記録」へ)
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 講義で毎回配布するプリントがテキストになるので欠席しないこと。
- (2) 登録上限数を上回った場合は、学科・学年を問わず抽選する。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 10点
 - ②課題レポート 10点
 - ③テスト点 80点
- ①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

講義で、毎回テキストとして自作プリント(一回の講義で2~5枚)を配布する。

【参考文献】

参考文献はプリントに表記する、もしくは講義の中で適宜紹介する。

沖縄の観光

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の基地問題A

担当教員 一屋良 朝博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の基地問題 B

担当教員 大城 尚子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では「なぜ沖縄に在日米軍基地が集中するのか」という問いを様々な議論から考察していく。それらを踏まえ、受講生は国際的、国内的な視点からその問題を分析し、説明することができるようになることを目的としている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	沖縄と軍事基地問題
3	在沖米軍基地の歴史①—いかに沖縄に米軍基地が建設されたのか
4	在沖米軍基地の歴史②—反基地運の展開とその意義
5	日米同盟と沖縄①
6	日米同盟と沖縄②
7	レポートの課題設定
8	東アジアにおける在沖米軍基地の役割
9	アジア・太平洋地域における在沖米軍基地の役割
10	植民地主義と米軍基地問題①
11	植民地主義と米軍基地問題②
12	博物館における歴史史実の展示
13	植民地主義と米軍基地問題③
14	先住民族と米軍基地問題①
15	先住民族と米軍基地問題②
16	試験

【履修上の注意事項】

新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など）。私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。本講義は基本的に講義形式であるが、できるだけインタラクティブ（教員と学生が双方向にやりとりを行う）授業を目指す。そのうえで、受講生は毎回の授業の予習・復習を行い、講義中に講義内容で不明な点に関する質問と意見を述べてもらう。また、毎回の講義で振り返りシートを講義中に記入してもらい、翌回の授業の冒頭で復習する。

【評価方法】

出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。出席・授業参加姿勢（30%）、レポート（40%）、期末試験（30%）

【テキスト】

毎回、講義のレジュメと資料を印刷して配布する。

【参考文献】

ケント・カルダー著、武井楊一訳、『米軍再編の政治学—駐留米軍と海外基地のゆくえ』日本経済新聞出版社、2008年。江畑謙介『米軍再編』ビジネス社、2005年、野村浩也『無意識の植民地主義』御茶の水書房、2005年など

沖縄の基地問題B

担当教員 石川 朋子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、「基地問題」を基地に隣接する環境で暮らす生活者として考えていく。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス（登録確認、講義概要等）
2. 軍用機墜落と大学
3. 沖縄の米軍基地問題（概要）
4. 銃剣とブルドーザー
5. 「日本復帰」を考える
5. 石川・宮森小学校ジェット機墜落事件と住民生活
4. 辺野古基地建設と住民
5. 米軍基地と東村高江の住民
6. 恩納村都市型訓練建設阻止と住民
7. 米軍基地から派生する被害

※以上のような項目で、講義を実施していく予定である。講義ではゲストスピーカーを招いての講話又はフィールドワーク等を実施する場合もある。

【履修上の注意事項】

授業の際に、出席確認をかねて、リアクションペーパー（授業に対する感想・質問・意見・要望等）を提出してもらう。他の受講生の学習を妨害する場合は、退席を要求する場合もある。

【評価方法】

出席、リアクションペーパー、テスト、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義は、毎回配布するレジュメ・資料等に沿って行う。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

沖縄の経済

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄経済の現状を理解し、自立へ向けた課題と展望を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法を説明する。
2	米軍基地と沖縄経済①
3	米軍基地と沖縄経済②
4	米軍基地と沖縄経済③
5	米軍基地と沖縄経済④
6	沖縄振興策①
7	沖縄振興策②
8	沖縄振興策③
9	沖縄振興策④
10	沖縄県の財政状況
11	中間試験
12	沖縄観光の課題と展望①
13	沖縄観光の課題と展望②
14	沖縄観光の課題と展望③
15	沖縄観光の課題と展望④
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

沖縄国際大学公開講座委員会編『沖縄経済の課題と展望』那覇出版社、1998年。
大城郁寛『図説 沖縄の経済』東洋企画、2007年。

沖縄の芸能

担当教員 佐々木和子 5 回、伊藤幸太 5 回、仲本陽兵 5 回

対象学年 1 年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、祭りのビデオ映像や歌三線の実演により、琉球列島の村々の祭りや行事で歌われる「歌謡」と「芸謡」（芸能歌謡）について解説する。沖縄の民俗芸能の基礎知識を学び、島の自然と共同体の生活・歴史の中から生まれた「歌謡」に込められている島人達の祈りや思いを知り、また、「芸謡」では、歌三線を中心とする琉球音楽と歌詞の内容についてとりあげる。「歌」をとおして沖縄の暮らしの折々に出会う庶民の芸能文化への関心をむける機会としたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球列島（奄美・沖縄・宮古・八重山）の祭り・年中行事
2	琉球列島の芸能と祭り、そして歌謡の表現
3	琉球列島の「歌謡」の特長①
4	琉球列島の「歌謡」の特長②
5	琉球列島の「歌謡」の特長③
6	奄美諸島の「芸謡」
7	沖縄諸島の「芸謡」
8	八重山諸島の「芸謡」① ユンタ・アヨー・ジラバ
9	八重山諸島の「芸謡」② 節歌
10	八重山諸島の「芸謡」③ トゥバラーマ・スンカニ
11	宮古諸島の芸能と神祭り
12	宮古諸島の祭祀歌謡①
13	宮古諸島の祭祀歌謡②
14	三線文化と宮古諸島の祭り
15	宮古民謡の世界
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回、講義で発見したこと、感想、質問などを簡単に書いて提出すること。出欠票をかねる。

【評価方法】

遅刻、欠席の多い者は単位を認めない。期末にはテストを行う。

【テキスト】

テキストは特になし。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

必要に応じて、その都度指示する

沖縄の言語

担当教員 仲原 穰

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

奄美・沖縄では現在でも老年層を中心に伝統的なことば（琉球語・琉球諸語）が使われています。しかし、若年層は老年層が使う伝統的なことばが理解できず、中年層も琉球語のみで会話できる人は少ない状況です。そのため「消滅の危機に瀕する言語」と認定されました。このままでは民族の文化基盤の一つの「言語」を失ってしまいます。本講義で琉球語の基礎を学び、親族や地域社会から言語を学ぶための足がかりにしてほしいと考えています。ただし、第3回目以降は沖縄語（うちなーぐち）を中心に学びます。このほか、日本古語や現代日本語諸方言との関わり、わらべうた・民謡・ことわざ等も取り扱います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス／日本祖語と琉球語／琉球語と日本古語／挨拶ことば
2	ハ行音の歴史／琉球諸方言の多様性／琉球語の区画
3	三母音の原則
4	連母音の融合／子音の口蓋化①②
5	子音の口蓋化③／「～が」の使い分け／指示語／1拍語の特徴
6	サ形容詞の終止形・連体形・ヌ形／動詞の終止形
7	動詞の否定形・命令形・禁止形（ラ行動詞の禁止形も含む）／語中・語尾の「～り」
8	ア行（イ・ウ）とヤ行（イイ）・ワ行（ウウ）の区別／「～ヤ」の融合
9	動詞の終止形・連体形の違い／沖縄語の係り結び／「～を」
10	基礎の確認／「～に」／awaはaa
11	動詞の志向形・尾略形・連用形／疑問文の作り方
12	丁寧な言い方（名詞文と形容詞文）
13	動詞のて形・継続形・過去形
14	動詞の過去の否定形・疑問形／サ形容詞の過去形・過去連体形
15	な形容詞／「～で」／三つの「ナ（ー）」
16	期末試験

【履修上の注意事項】

本講義は半期で沖縄の言語の基礎について学びます（外国語などの語学は通常週2回）。そのため、1回の講義が他の語学の科目に比べて濃くなります（多くのことを学び、覚えなくてはならない）。欠席が多いと講義について行けなくなる可能性が高いため、体調不良などやむを得ない場合以外は休まないでください。また、「方言の講義だから勉強しなくてもついていけるだろう」と侮らず、第2外国語を習得するぐらいのつもりで一生涯懸命勉強してください。

【評価方法】

期末試験（75%）＋授業への参加度[リアクション・ペーパーの提出]（25%）によって評価します。

【テキスト】

『沖縄語の入門（CD付改訂版）—たのしいウチナーグチ—』（白水社、2006[2000]年）
西岡敏・仲原穰[著]、中島由美・伊狩典子[協力]

【参考文献】

『沖縄の言葉と歴史』外間守善著（中公文庫、2000年）
『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』内間直仁・野原三義[編著]（研究社、2006年）
『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）※その他講義で紹介します。

沖縄の言語

担当教員 比嘉 光龍

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

琉球諸島には琉球諸語（奄美語、国頭語、おきなわ語、宮古語、八重山語、与那国語の6つの言語の総称）が存在するが、その一つ、うちなーぐち（おきなわ語）の中の首里・那覇言葉について講義する。うちなーぐちを「方言」と日本では定義してきたが、「ユネスコ（国連教育科学文化機関）」も2009年に発表しているようにうちなーぐちは独立言語である。本講義ではうちなーぐちを独立言語だと認識してもらいたいのはもちろん、うちなーぐちのあいさつや簡単な会話、またうちなー民謡なども取り入れる。この授業のねらいは、日本ではなく、うちなーの視点から世界を見ることができ、さらにうちなーに誇りを持つことができる人材を育てることである。

【授業の展開計画】

- 1 かじゃでい風生演奏と歌詞解説／講師紹介／初対面時の挨拶ありくり（あれこれ）
- 2 自分の姓のうちなー読みを知る／琉球諸語とは
- 3 うちなーぐちの発音／「い」と「あ」の違い／うーりきさん（嬉しい）について
- 4 うちなーぐちの簡単な挨拶ありくり／「うちなーやまとうぐち」について
- 5 「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」／うちなーじゃんけん「ブーサー」
- 6 沖縄県の位置と端点について／うちなーぐちの表記について
- 7 ていんさぐぬ花（身体呼称編）／うちなーぐちの会話
- 8 うちなー・琉球の歴史／沖縄県の強制設置日を知る
- 9 琉球諸民謡という新しい定義について／琉球の島々の民謡を聴く
- 10 うちなーぐちのサンミン（数詞）／うちなー芝居を見る
- 11 「離島」という言葉を考える（グループ分けし意見発表）
- 12 うちなーぐちで簡単な文を書いてみる
- 13 うちなー地域の1年の行事ありくり
- 14 うちなーぐちはなぜ方言ではないか（グループで考え意見発表）
- 15 うちなーの野菜ありくり
- 16 琉歌について

【履修上の注意事項】

講義中はトイレに行かない、居眠りをしない、私語をつつしむなどの基本的なことは当たり前を守っていただきたい。さらにこの講義ではテストは行わない。そのかわりに2週間に一度講師の書いたエッセーの感想と講義の感想をA4用紙一枚分にまとめて提出してもらう。

【評価方法】

エッセーと講義の感想文提出（50%）＋授業への参加度（25%）＋授業態度（25%）によって評価する。

【テキスト】

授業毎に配る講師作成プリント

【参考文献】

『沖縄語辞典』（国立国語研究所編）『琉球語辞典』（大学書林）『伊波普猷全集』全13巻（平凡社）

沖縄の考古学

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

考古学は発掘調査を行い、土に埋もれた歴史を掘り起こす学問である。授業では、沖縄を中心とする琉球列島における発掘調査の成果を中心に紹介し、そこからわかる沖縄の歴史について解説する。

考古学の学問的特質について理解し、遺跡をとおして歴史を学ぶ。自分の関心ある沖縄の遺跡の一つを見つけ説明・紹介できるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	考古学ってどんな学問？
3	琉球列島の地理的、文化的位置
4	沖縄の旧石器遺跡
5	奄美・沖縄の先史文化（1）縄文時代並行期
6	奄美・沖縄の先史文化（2）弥生時代～古代並行期
7	宮古・八重山の先史文化
8	琉球列島における農耕のはじまり
9	琉球王国のグスク及び関連遺産群
10	陶磁の道と銭の道
11	墓から知る近世琉球の社会
12	異国船来琉と海底遺跡
13	近代沖縄の山と海の開発
14	発掘された戦争遺跡
15	補足・まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席、テストを評価対象とする。

【テキスト】

授業では、要旨と各テーマに沿って関連する遺跡紹介資料や新聞記事等を配布予定。

【参考文献】

課題に合わせて適宜紹介する。

沖縄の自然環境 I

担当教員 仲田 栄二

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の自然環境Ⅱ

担当教員 仲田 栄二

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の社会

担当教員 -具志堅 邦子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、沖縄の社会の構造を捉える。それとともに沖縄の社会のもつ可能性を探る。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス、近代と沖縄らしさ
02. 浜下りと雛祭り
03. 沖縄の社会の構造
04. 神話的思考と歴史的思考
05. 観察するものを観察する
06. ナショナリズムと沖縄
07. ウチナーンチュの誕生
08. 連結都市圏の誕生と第二のシマ社会
09. コミュニティ
10. 守姉
11. 沖縄における〈非時間性〉
12. 知の考古学的手法を使ってみる
13. トボスとエイサー
14. 連結都市圏と太鼓型エイサー
15. 新しいことが古いと感じられるパラドックス
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の受講の積み重ねが重要です。なお講義時に配付する資料は、次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

沖縄の宗教

担当教員 加治 順人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、沖縄で信仰されている様々な宗教的事象を取り上げ、それがいつごろ始まって、どのような目的で行われ我々の生活に関係しているのかを概説していきます。前半は現在沖縄で行われている伝統的な信仰を取り上げ、後半は外国から入ってきた宗教について説明します。

【授業の展開計画】

1週目	登録・講義内容の説明	8週目	沖縄の年中行事
2週目	沖縄固有の信仰(セヂとマブイ)	9週目	外来宗教(仏教)
3週目	沖縄固有の信仰(ユタ)	10週目	外来宗教(神社)
4週目	沖縄固有の信仰(ノロ)	11週目	外来宗教(道教)
5週目	沖縄固有の信仰(火の神)	12週目	外来宗教(キリスト教)
6週目	沖縄固有の信仰(位牌)	13週目	外来宗教(新宗教)
7週目	沖縄固有の信仰(御嶽信仰)	14週目	レポート提出

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する。抽選からもれた学生の追加登録は原則として認めない。

【評価方法】

試験は行わず、出席とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

講義ごとにその都度紹介する。

沖縄の政治

担当教員 -宮城 修

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の地理

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

琉球列島や沖縄本島をはじめとする、亜熱帯地域「沖縄」における自然環境と人々の生活、文化、産業などについて、地理学の立場からアプローチを行う。講義は郷土「沖縄」が理解しやすいように、パワーポインターやVTRなどの映像資料を活用しながらやさしく行う予定である。

【授業の展開計画】

1. 沖縄の地理的位置とその概観
2. 沖縄の自然環境-地形と土壌
3. 沖縄の気候
4. 沖縄の農業
5. 沖縄の鉱工業
6. 沖縄の水産業
6. 沖縄の商業と交通
7. 沖縄の都市地域
8. 沖縄の村落地域
9. 沖縄の人口移動と移民
10. 離島地域の自然と人々の暮らし(宮古島)
11. 離島地域の自然と人々の暮らし(八重山)
13. 沖縄の地名と集落
14. 沖縄の基地問題
15. これからの沖縄

【履修上の注意事項】

沖縄の地図を用意すること(市販のものでかまわない)。

【評価方法】

出席状況(講義回数分の1/3以下は単位不可)と数回のレポート提出および試験で総合的に判断する。

【テキスト】

とくになし。

【参考文献】

仲田邦彦(2009)沖縄県の地理、編集工房東洋企画。
中山満, 堂前亮(1983)沖縄の地理 島の自然と生活 新星出版社
シリーズ: 日本の地誌 10 九州・沖縄 朝倉書店

沖縄の地理

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、沖縄の自然・文化に関わる地理的事象について、島嶼地理学の視点から講義を進める予定である。とくにここ沖縄では、亜熱帯特有の特異な自然環境のなかで、それに適応しながら多様な文化が生み出されている。本講義では、人々の暮らしの変化から、自然と人間の関係、そして「島嶼」としての「沖縄」を考えてみたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄の地理的位置
2	沖縄の自然地理①－気候・気象－
3	沖縄の自然地理②－地形・地質・土壌－
4	沖縄の自然地理③－水文環境と水利用－
5	沖縄の文化地理①－村落の景観－
6	沖縄の文化地理②－村落の社会構造－
7	沖縄の文化地理③－村落空間と地名表記－
8	沖縄の社会地理①－都市空間の形成－
9	沖縄の社会地理②－都市への人口移動－
10	沖縄の社会地理③－離島の地域構造－
11	宮古諸島の地誌①
12	宮古諸島の地誌②
13	八重山諸島の地誌①
14	八重山諸島の地誌②
15	大東諸島の地誌
16	試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

テキスト：毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

参考文献：参考文献は、講義中に適宜紹介する。

沖縄の地理

担当教員 -上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の美術・工芸

担当教員 又吉 光邦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の美術・工芸

担当教員 赤嶺 善雄

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「沖縄の美術・工芸」という前に、そもそも美術って何？ 工芸とは？ 美術工芸って？

日本語に美術という言葉（概念）が造られてから140年ほどになる。では、それ以前に美術はなかったのか？

美術史とは何か。

本講義では、琉球・沖縄の美術と工芸について、主として工芸の分野を、なかでも陶芸、シーサー、漆、ガラスなどを中心に、歴史の変遷に沿ってみていく。美術、工芸、美術工芸、ちゅくいむじゅくい。生活の中で造られてきた工芸品が産業化していく様を概観し、沖縄の美術・工芸の今後の展開について考えたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション / 沖縄の美術・工芸についてのレディネステスト
2	美術とは 工芸とは 美術工芸とは
3	美術史のなかで琉球・沖縄の造形をみてる
4	古琉球の造形
5	↓
6	近世琉球の造形
7	↓
8	近代沖縄の美術・工芸
9	↓
10	↓
11	戦後の沖縄の美術・工芸
12	↓
13	↓
14	沖縄の美術・工芸の今後の展開
15	テスト
16	テスト返却とまとめ

【履修上の注意事項】

リアクションペーパーの提出を以て出席確認をする。

全体の1/3以上を欠席した場合、履修したとみなさない。つまり6回欠席すると履修したとみなされない。30分を超える遅刻は出席とみなさない。

学びの場にふさわしい真摯な態度で望んでもらいたい。

【評価方法】

毎回のリアクションペーパーの記述から、意欲・理解度・真摯さを判断する。

リアクションペーパー、受講態度、レポート、テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めない。

適宜、レジュメや資料を配布する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

沖縄の美術・工芸

担当教員 佐久本 邦華

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の工芸の中で、沖縄県の立派な産業である伝統的染織物産業の現状を理解し、今後の沖縄の染織産業として求められるものを学ぶことをねらいとしている。そのため、まず琉球王朝期の王族・士族のみが着用を許された紅型衣装について歴史的背景を学び、ならびにデザイン手法の確認を行う。その際、定説の誤りなどについて触れ、科学的視点を持った研究の大切さを学んでもらう。また、記録映像等で伝統工芸について理解を深める。最後に現在の伝統（染織）産業の実態について統計資料などをもとに理解を深めると共に若者の産業としての可能性を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄の地理、歴史がもたらした沖縄工芸の歴史について
2	神女の守護する島Ⅰ（琉球開闢、オナリ信仰、巫女体系） 久米島君南風の画像・動画
3	神女の守護する島Ⅱ（琉球開闢、オナリ信仰、巫女体系） ノロ衣装
4	神女の衣装 中世（13～16世紀）・近世（17～19世紀）
5	「おもろさうし」に描かれた神衣・・・「ゑがきみはね」
6	礼服の制定・・・「袞衣」と「阿志阿計古毛子」／久米島の「阿志阿計古毛子」
7	形付（紅型）の型紙・型紙のサイズ・紙の種類
8	琉球形付（紅型）型紙のコンピュータ・グラフィックス援用による幾何学的考察
9	クライス・ジェオメトリ理論（中世のヨーロッパ建造物・彫刻・絵画）
10	コンピュータ・グラフィックスを用いた形付（紅型）衣装の構図解析（衣装サイズ・文様配置）
11	西洋、日本、沖縄の絵画的空間の違いについて
12	形付（紅型）・琉球藍・芭蕉布のビデオ鑑賞
13	統計データに見る沖縄県の伝統衣類産業Ⅰ 紅型/芭蕉布/宮古上布・久米島紬・琉球紺・石垣織物
14	統計データに見る沖縄県の伝統衣類産業Ⅱ 紅型/芭蕉布/宮古上布・久米島紬・琉球紺・石垣織物
15	形付と「紅型」という名前について
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の効果を考えて、講義順序を入れ替える場合があります。おしゃべりには、厳しく対処します。

【評価方法】

テストは筆記形式になります。問題数は4問程度で、1問につき600～800文字程度書いてもらいます。配布物などは持ち込み不可。

【テキスト】

毎回テキストを配布します。

【参考文献】

『紅型に秘された祈り ～今、明かされる紅型の秘密～』、佐久本邦華・又吉光邦、沖縄教販。「紅型型紙の幾何学的考察」「沖縄県の伝統的衣類産業の一考察」「古琉球紅型の型紙の外寸と名称および館蔵（大黒屋型）との比較」など<http://ir.okiu.ac.jp/handle/2308/357>、<http://ir.okiu.ac.jp/handle/2308/252>を参照。

沖縄の美術・工芸

担当教員 花城 郁子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球王国、沖縄の近・現代美術を通して、外部からの影響により内になる気づきをどのように表現してきたかを、美術作品を通して学ぶ。リアクション・ペーパーを描く・書くことで、自身の表現力を問うと共に沖縄の文化を創造・継承していくのは自分たちである意識を高め、沖縄で表現する意味を考える場とする。

【授業の展開計画】

- 01: ガイダンス
- 02: 琉球王朝時代の絵画-王の影・御後絵
- 03: 琉球王朝時代の絵画-国家貿易・贈答品としての鑑賞絵画
- 04: 王権の証、ムラの守神、民衆と同居するシーサー
- 05: 作品鑑賞-県立博物館・美術館、中間レポート
- 06: 沖縄県立博物館・美術館の歴史
- 07: 戦前の画家達一名渡山愛順と大嶺政寛（沖縄を背負う）
- 08: 戦争は画家をどう変えたか-美術村「ニシムイ」
- 09: 戦争画-レオナルド・藤田を通して
- 10: 沖縄の精神文化-岡村吉右衛門の眼差し
- 11: 岡本太郎が観た沖縄-沖縄文化論より
- 12: 絵画鑑賞法-1
- 13: 絵画鑑賞法-2
- 14: 絵画鑑賞法-3
- 15: まとめ
- 16: レポート形式の試験

【履修上の注意事項】

私語、雑談、遅刻禁止。美術に興味を持ち、表現とは何かを考え、理解しようという意欲を持った学生の参加を希望。毎講義では小演習としてリアクションペーパーを書く、描く。
各自準備するもの：色鉛筆、マーカー、ハサミ、ノリ、セロテープなど。
美術館や画廊などの展示により、「作品鑑賞」の日程が前後する可能性がある。

【評価方法】

リアクション・ペーパーと中間レポート、試験レポートで総合的に評価。

【テキスト】

適宜に配布。

【参考文献】

個々人で美術館、画廊、野外展示など美術作品展示空間に行き作品鑑賞、及び映画やテレビなどの美術関係の番組鑑賞に勉める。

沖縄の文学

担当教員 大城 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文学」とは何かを考えながら、戦前・占領期・復帰後の「沖縄の文学」の推移を概観する。芥川賞受賞作品をはじめとする主要な散文作品や韻文作品を取り上げ、時代背景とのかかわりのなかで理解を深める。また、創作（特に俳句や詩、短歌）を試みるなかで沖縄の文学への理解を深め、可能性を探る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに 「略年表から沖縄文学の足跡をたどる」（『沖縄文学選』より）
2	戦前の小説 「九年母」（山城正忠）・「奥間巡査」（池宮城積宝）・「滅びゆく琉球女の手記」
3	アメリカ統治下の芥川賞作品 「カクテル・パーティー」（大城立裕）・「オキナワの少年」
4	沖縄俳句の概観 『沖縄俳句総集』（野ざらし延男編）
5	俳句入門講座Ⅰ
6	俳句入門講座Ⅱ
7	俳句創作の試み
8	復帰後の小説Ⅰ 芥川賞作品「水滴」（目取真俊）・「豚の報い」（又吉栄喜）
9	復帰後の小説Ⅱ 「風水譚」（崎山多美）・「椎の川」（大城貞俊）
10	戦前の琉歌・短歌・詩
11	山之口獏の詩 『山之口獏全集』第1巻 詩編（思潮社）
12	沖縄戦後詩Ⅰ 『沖縄戦後詩史』（大城貞俊・編集工房 獏）
13	沖縄戦後詩Ⅱ & 詩創作の試み
14	沖縄戦後の短歌 & 短歌創作の試み
15	まとめと課題レポートの説明
16	課題レポート提出

【履修上の注意事項】

事前に配布された資料を読んでおくこと。
課題作品を提出すること。

【評価方法】

出席、課題作品、課題レポートで評価する。
（注：授業日数の3分の1欠席すると、規定により不可となる。3回の遅刻は1回の欠席と見なす。）

【テキスト】

岡本恵徳・高橋敏夫編『沖縄文学選 日本文学のエッジからの問い』（勉誠出版、2003年刊）

【参考文献】

・川村湊編『現代沖縄文学作品選』（講談社文芸文庫）・『沖縄文学全集』（沖縄文学全集編集委員会編・国書刊行）・『沖縄俳句総集』（野ざらし延男編）・『山之口獏全集』第1巻 詩編（思潮社）・『沖縄戦後詩史』（大城貞俊・編集工房 獏）・『言振り 琉球孤からの詩・文学論』（高良勉・未来社）・その他適宜

沖縄の民俗

担当教員 三上 智恵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の民俗

担当教員 波平 エリ子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、沖縄の民俗文化について考察する。
 具体的には、沖縄の伝統的村落・信仰・生業・家族親族といった民俗事象を取り上げる中で、沖縄の民衆文化がどのような特色を持っているのかを中心に論じる。また時間の許す限り、周辺諸文化との類縁性や異質性について言及し、理解を深めてもらうために、映像も活用しながら講義を進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄の民俗
2	柳田國男と民俗学
3	沖縄の家族
4	沖縄の親族
5	門中の成立 1
6	門中の成立 2
7	門中の機能と構造 1
8	門中の機能と構造 2
9	家の相続
10	沖縄の霊的職能者
11	沖縄の霊的職能者ーユタ
12	祭祀と信仰 1
13	祭祀と信仰 2
14	暮らしと生業
15	糖業と鉄道
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験ないしはレポート

【テキスト】

【参考文献】

授業で適宜紹介する

沖縄の民俗

担当教員 儀間 淳一

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄では現在でも先人たちから受け継がれてきた行事や習俗に接する機会が多いが、それと同時に今では見ることのできない習俗も少なくない。このような行事や習俗、日々の暮らしを支える生業などについて身近な事例とともに映像等を活用しながら紹介し、これらの由来や変遷、特徴などについて考える。また、2011年の東日本大震災以降、災害に関する記録や伝承が注目されるようになった。講義では沖縄に残る災害に関する伝承や習俗をとりあげ、自然災害と民俗について考えていく。

本講義をきっかけに出身地や住んでいる地域など自分の足もとを見つめ直してほしい。

【授業の展開計画】

1週目	民俗とは	9週目	祖先崇拜
2週目	沖縄の村落①	10週目	ユタ
3週目	沖縄の村落②	11週目	外来の信仰①
4週目	沖縄の村落③	12週目	外来の信仰②
5週目	年中行事①	13週目	仕事と暮らし①
6週目	年中行事②	14週目	仕事と暮らし②
7週目	ひとの一生①	15週目	自然災害と民俗
8週目	ひとの一生②		

【履修上の注意事項】

私語は慎む。講義中むやみに教室を出入りしない。

【評価方法】

出席状況、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

講義で随時紹介する。

沖縄の民俗

担当教員 城間義勝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

民俗とは、私たちの暮らしのなかで伝承される風習（ならわし・しきたり）のことをいいます。それらは教科書などの書物から習うものではなく、見たり、聞いたり、経験することで覚え、次の世代へと語り継いでいきます。本講義では、沖縄各地で語り継がれている民俗事象を紹介しながら、そこに住む人々の多様な生活文化を見ていきたいと思ひます。また、自分が住んでいる地域や家族との関係を見つめ直し、コミュニケーションの大切さを知っていただきたいと思ひます。

【授業の展開計画】

1 週目	講義内容説明	9 週目	年中行事②
2 週目	民俗学と沖縄研究	10 週目	年中行事③（綱引き）
3 週目	村落①（シマ）	11 週目	ビデオ
4 週目	村落②（聖地）	12 週目	人生儀礼①
5 週目	村落③（聖地）	13 週目	人生儀礼②
6 週目	家・屋敷	14 週目	シマを歩く①
7 週目	家族と親族	15 週目	シマを歩く②
8 週目	年中行事①	16 週目	来訪神祭祀

講義終了時にレポートを提出。

- ・15週ある講義の中で、興味を持ったテーマを1つ取り上げ、レポートを作成する。
- ・選んだテーマに関して、必ず親・祖父母・地域の人から話を聞く。
- ・他府県出身の生徒や留学生は、出身地の行事と沖縄の行事を比較してもよい。
- ・パソコン書き（手書き不可） A4サイズ2～3枚ほど（上限なし）。

以下の項目に沿って、レポートを作成する。

- ①学部・学科・学籍番号・名前
- ②テーマ
- ③選んだ理由
- ④報告（聞き取りしたこと）
- ⑤まとめ（感想・これからの発展）
- ⑥参考文献

【履修上の注意事項】

私語は慎む。

【評価方法】

出席状況。講義終了時にレポートを提出。

【テキスト】

テキストはなし。講義毎にレジュメを配布する。

【参考文献】

参考図書は講義毎に随時、紹介する。

沖縄の民話

担当教員 禰 晴一郎

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

フィールドワークで採録した沖縄の民話について幅広く学ぶ。

【授業の展開計画】

1. 「沖縄の民話」の概要、講義概要の説明
2. 民話研究の歴史、民話と伝承話、分類の説明
3. 神話①
4. 神話②
5. 伝説①
6. 伝説②
7. 伝説③
8. 昔話①
9. 昔話②
10. 昔話③
11. 昔話④
12. 動物昔話①
13. 動物昔話②
14. 笑い話①
15. 笑い話②
16. まとめ、レポート提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- 1, 出席状況（欠席5回の時点で単位は認められない）また、遅刻や欠席数により減点します。
- 2, レポート提出

【テキスト】

特になし。資料は講義ごとに配布する。

【参考文献】

沖縄の歴史Ⅱ（近現代）

担当教員 新城 俊昭

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の歴史を学ぶ目的は、単に祖先の歩んできた足跡を知ることだけにとどまらない。抽象的・一般的な概念でまとめられた歴史像に、地域のより具体的に掘り下げられた歴史事象を照らしあわせることによって歴史の本質にせまるという、歴史観を培ううえでのもっとも重要な役割をも担っているのである。本講座では、琉球・沖縄の歴史から先人の経験を学ぶとともに、日本、アジア、そして世界の歴史をみる目を養っていきたいと考えている。

【授業の展開計画】

琉球王国の崩壊から現代までの沖縄の歴史と文化を、歴史的な出来事だけでなくヒト・モノにも焦点をあてながら学ぶ。毎時間テーマに沿って学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培い、沖縄人としてのアイデンティティの確立を図る。

週	授 業 の 内 容
1	琉球王国はどのように解体されたか～廃琉置県(琉球処分)。分島増約問題
2	沖縄県民は世替わりをどのように受け止めたか～旧慣温存策と沖縄県政
3	沖縄の民衆はどのように権利を獲得したか～人頭税廃止運動。謝花昇と民権運動
4	ソテツ地獄とはどのような社会状況か～大戦景気とソテツ地獄。海外移民と出稼ぎ
5	十五年戦争はどのように始まったか～沖縄の皇民化政策。軍国主義の台頭と沖縄
6	日本はなぜ戦争を拡大させたか～戦時体制と県民の暮らし。標準語励行運動がもたらしたもの
7	日本はなぜアメリカと戦争をはじめたか～アジア太平洋戦争の勃発。沖縄と軍国主義教育
8	沖縄戦はなぜおこったか～軍事基地としての沖縄の役割。沖縄戦前夜(対馬丸事件・十空襲)
9	沖縄戦から何を学ぶか～住民犠牲の特徴。強制集団死の実態(ヒビチガマとシカガマ)
10	戦後の焼け跡から沖縄はどのように立ち上がったか～収容所から始まった戦後。米軍支配の実態
11	島ぐるみ闘争はなぜおこったか～軍用地の強制接収と島ぐるみ闘争。琉球政府の創設
12	沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだか～基地被害の実態。ベトナム戦争と沖縄。祖国復帰運動
13	日本復帰で沖縄の何が変わったか～新生沖縄県。復帰三大事業と交通方法の変更。密約を暴く
14	21世紀の沖縄はどこへ向かおうとしているのか～復帰後の保革県政。現代の課題と基地問題
15	琉球・沖縄の歴史と文化のまとめ～沖縄歴史検定などを利用
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

毎回のテーマの進捗状況によっては、扱うテーマを多少変更する場合もある

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

『教養講座 琉球・沖縄史』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）。『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著（沖縄学販発行）。他（プリントで配布または毎時間授業で紹介）

【参考文献】

『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著（沖縄学販発行）。他（プリントで配布または毎時間授業で紹介）

沖縄の歴史Ⅱ（近現代）

担当教員 伊敷 勝美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近現代の沖縄研究を学ぶうえでの基礎的な学習を行います。明治初期から日本復帰前後までを扱い、その時代の地域の動きや住民に焦点をあてていきます。時に講義のテーマのアウトラインをつかむため、新聞資料や映像資料等も使います。ダイナミックさと豊かさ、そして個性をもつ沖縄歴史の「見方」をさまざまな側面から捉えることができればと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	廃藩置県前夜の沖縄
2	近代の諸改革と住民
3	移民①－沖縄からの戦前移民
4	移民②－国策移民
5	出稼ぎと金の卵（戦前）
6	沖縄戦への道
7	戦後引き揚げ①
8	戦後引き揚げ②
9	戦後復興と基地建設
10	都市の建設と特飲街①
11	都市の建設と特飲街②
12	エイサー
13	コザ「暴動」と住民
14	基地と毒ガス移送と住民
15	復帰前後の沖縄政策
16	テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポートと試験の総合点に、出席状況を勘案して評価をします。

【テキスト】

毎回、講義資料を配布します。

【参考文献】

参考文献は、講義のなかで適宜紹介します。

沖縄の歴史Ⅱ（近現代）

担当教員 恩河 尚

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近現代（明治時代から戦後史）の沖縄歴史を通史的に概観する。その際、日本史や 東アジア史の動向も意識しながら、その中で沖縄という地域、あるいは沖縄人をどう位 置付けていけばよいのか留意したい。また、教員の一方向的な話にならないよう、努めて 学生さんたちとキャッチボールしながら（疑問点等の把握）、講義を進めていきたい。 そうすることによって、例えば、なぜ、沖縄県は歴史的に二度も設置されたのか、沖 縄戦の主要な舞台はどこか等、学生さん自ら沖縄歴史と対話できるよう、たえず実践的 な意味づけをしながら授業を展開したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	近代沖縄の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）
2	琉球処分（廃琉置県）
3	旧慣温存（存統）と近代諸改革（新制度の導入）
4	沖縄移民の諸相
5	国家総動員態勢の確立（沖縄戦への道）
6	沖縄戦
7	戦後引き揚げ
8	沖縄戦後史
9	コザ市の誕生とコザ騒動（暴動）
10	祖国復帰－新生沖縄県の誕生
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

沖縄の歴史Ⅰと通史的に行っているので、沖縄の歴史Ⅱの受講者は、沖縄の歴史Ⅰも 受講して欲しい。また、当然ながら、講義に関する以外の私語等は厳禁であることに留意したい。

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の歴史 I (前近代)

担当教員 新城 俊昭

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の歴史を学ぶ目的は、単に祖先の歩んできた足跡を知ることだけにとどまらない。抽象的・一般的な概念でまとめられた歴史像に、地域のより具体的に掘り下げられた歴史事象を照らしあわせることによって歴史の本質にせまるといふ、歴史観を培ううえでのもっとも重要な役割をも担っているのである。本講座では、琉球・沖縄の歴史から先人の経験を学ぶとともに、日本、アジア、そして世界の歴史をみる目を養っていきたくと考えている。

【授業の展開計画】

旧石器時代から琉球王国崩壊までの沖縄の歴史と文化を、歴史的な出来事だけでなくヒト・モノにも焦点をあてながら学ぶ。毎時間テーマに沿って学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培い、沖縄人としてのアイデンティティの確立を図る。

週	授 業 の 内 容
1	沖縄人(ウチナーンチュ)はどこから来たか～旧石器時代のアジア・日本・沖縄を概観する。
2	貝塚は何を語っているか～沖縄貝塚文化の特徴と縄文・弥生文化との関係。
3	グスクはどのように誕生したか～按司と三山時代の形成。
4	琉球王国の誕生～尚巴志による三山統一。明との冊封・朝貢関係と王国の構造。
5	第二尚氏王統の誕生と琉球の繁栄～金丸のクーデター。尚真の中央集権政策。
6	琉球の大交易時代～東アジア・東南アジアを股にかけた琉球の大交易がもたらしたもの。
7	島津はなぜ琉球を侵略したか～幕府・薩摩と琉球の関係。その後の琉球と中国の関係。
8	薩摩の侵略で琉球はどう変わったか～琉球の検地と奄美諸島の分割。江戸使節の意義。
9	近世琉球の政治体制～羽時朝秀の政治改革。蔡温の政策。
10	薩摩支配下の進貢貿易～赤字に悩む進貢貿易。
11	農村の実態～土地制度と税制。農務帳に見る農村社会。
12	宮古・八重山の統治～人頭税は過酷な税制か。乾隆36年の大津波がもたらした影響。
13	琉球文化の特徴～イモの伝来と産業、近世の交通網、学問と文学の発達、美術工芸、芸能の発達
14	欧米船の来航～フランスの開国要求。ペリーの来航。通事・牧志朝忠にみる王国末期の琉球
15	沖縄の歴史と文化のまとめ～沖縄歴史検定なども利用
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

毎回のテーマの進捗状況によっては、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

『教養講座 琉球・沖縄史』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）。『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著（沖縄学販発行）。他（プリントで配布または毎時間授業で紹介）

【参考文献】

『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著（沖縄学販発行）。他（プリントで配布または毎時間授業で紹介）

沖縄の歴史 I (前近代)

担当教員 田名 真之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の前近代史(古琉球から琉球処分期まで)について学習する。通史と個別テーマで古琉球と近世琉球の歴史と文化について、中国、日本など対外関係も視野に入れながら考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1. 総論・講義の概要
2	2. 初期王統一舜天・英祖・察度各王統の系譜
3	3. 古琉球王国の成立ー尚巴志の三山統一 第一尚氏政権
4	4. 古琉球王国の展開ー尚円・尚真の時代 第二尚氏政権
5	5. 大交易時代ー中国冊封体制と海外交易の展開ー日本・朝鮮・東南アジア
6	6. 島津侵入ーその背景と島津の支配
7	7. 羽地朝秀と「羽地仕置」ー古琉球から近世琉球へ
8	8. 蔡温の国づくりー近世琉球の確立
9	9. 土と農ー身分制の社会
10	10. 墓をめぐるアラカルトー意匠、厨子甕、風水etc
11	11. 冊封と冊封使録
12	12. 江戸上りー幕藩体制下の異国琉球
13	13. 近世の中国貿易
14	14. 外艦渡来ーバジル・ホール、ベッテルハイム、ペリー
15	15. 琉球処分ー琉球王国の滅亡
16	テスト

【履修上の注意事項】

遅刻しないこと。質問は積極的に。

【評価方法】

試験の成績で評価

【テキスト】

講義でプリント配布。

【参考文献】

安里進他『沖縄県の歴史』（山川出版社）、豊見山和行編『琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館）、その他参考文献は適宜紹介

沖縄の歴史 I (前近代)

担当教員 恩河 尚

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前近代（先史時代から江戸時代）の沖縄歴史を通史的に概観する。その際、日本史や東アジア史の動向も意識しながら、その中で沖縄という地域をどう位置付けていけばよいか留意したい。また、教員の一方的な話にならないよう、努めて学生さんたちとキ ャッチボールしながら（疑問点等の把握）、講義を進めていきたい。そうすることによって、例えば「首里城」であれば、学生さん自ら「首里城」を案内できるようなレベルに目標を設置し、たえず実践的な意味づけをしながら授業を展開したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	グスク時代と古琉球
2	大交易時代と古琉球
3	進貢貿易と大交易時代
4	首里城と東アジア社会
5	薩摩侵入
6	薩摩侵入の歴史的意義
7	間切と村
8	沖縄人の姓名について
9	沖縄の道 I (陸上交通)
10	沖縄の道 II (海上交通)
11	近代沖縄の前夜 (牧志・恩河事件と島津斉彬)
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

前期と後期を通して通史的に行っている。境目は薩摩侵入前後である。例えば前期を履修すれば、後期は履修できないので、受講希望者は、授業の展開計画を参考に、前期か後期を選択してほしい。但し、単位は取得できないが聴講は許可いたします。併せて、後期限定で沖縄の歴史 II (近現代) も行うので、ぜひ受講者してもらいたい。当然ながら、講義に関する以外の私語等は厳禁であることに留意したい。

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】